



現代社会を生き抜くための迂回路をさぐる
東京アートポイント計画事業「東京迂回路研究」開始

この度設立される特定非営利活動法人（申請中）多様性と境界に関する対話と表現の研究所は、東京アートポイント計画の一環として、東京都、東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）との三者共催で、「東京迂回路研究」という事業を実施することとなりました。

「多様性」が社会的に大きな意義を持つ現在、芸術分野でも、特に障害のある人の表現活動について多数の支援策が講じられています。また全国各地で広がる「アートプロジェクト」を通じ、多様な背景を持つ人々と協働する表現活動への社会的関心も高まっています。こうした取り組みは多角的な波及効果を生み出す一方、その活動を領域横断的な視座をもとに検証するような視点ははまだ不足しています。

弊研究所のメンバーはこれまで、アーツ・マネジメント、臨床哲学、音楽療法といった「芸術と社会」について学際的に取り組む研究領域を通じ、障害や病、ケア、ジェンダー・セクシュアリティなどの分野に接近するアートのあり方について専門的な視点を深めてきました。そのなかで共通する問題意識は、人々のあいだにある「境界線」や、ひとつの言葉が持つ概念的枠組みは、流動的だという点です。時期、場所、社会環境などに応じて、つねに多数派と少数派、常識と非常識は入れ替わり、重層的かつ複層的な境界線を、自他ともに引き続けながら生活しています。

だとすれば、多様な背景を持つ人々との表現活動における人々の関係性も、一方向的で硬直したものではなく、「与える／与えられる」という立場を越えた先に生まれているはずで、また私たち自身も、生きてゆくなかで、言いようのないもどかしさややりきれなさ、つらさやしんどさなどを感じたとしても、どこか抜け道を見つけたり、寄り道をしたりして、なんとか歩きぬくということもあるはずで、それは必ずしも、脱落や失速ではありません。境界線の向こう側とこちら側を行き来しながら考え行動する、その往還を通じたもうひとつの道、「迂回路」の開拓が、これからの社会を「生き抜くための技法」であるとも言えるのではないのでしょうか。

そのような「迂回路」の様相を探ることから、新たな表現の萌芽を発見することができないだろうか。またそのことで、多数派であることを暗黙の前提とする「わたしたち」の固定化した価値観を越えた新しい社会のあり方をも模索できないだろうか。そのような視点から弊研究所は、調査・研究・対話を通じた研究事業を開始することとしました。つねに「わたしたち」の世界の外、境界線の向こう側に思いを馳せること。「生き抜くための技法」を獲得するための、「迂回路」を研究する旅がはじまります。

■プロフィール

代表理事：長津結一郎（東京藝術大学音楽環境創造科教育研究助手、慶應義塾大学研究員。
東京藝術大学大学院音楽研究科〔芸術環境創造〕博士後期課程修了）
事務局長：井尻貴子（NPO子ども哲学おとな哲学アーダコーダ理事。
大阪大学大学院文学研究科〔臨床哲学〕博士前期課程修了）
スタッフ：三宅博子（明治学院大学芸術学科非常勤講師、神戸大学大学院研究員。
神戸大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程修了）

■東京迂回路研究 ロゴデザイン

東京
迂回路
研究

東京迂回路研究

■東京迂回路研究 ウェブサイト

<http://www.diver-sion.org>

「東京アートポイント計画」とは…地域・市民が参画するアートプロジェクトを通じて東京の多様な魅力を創造・発信することを目指し、「東京文化発信プロジェクト」の一環として東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が展開している事業です。www.bh-project.jp

■平成 26 年度プログラム

今年度は、生き抜くための「迂回路をさぐる」をテーマに、対話型実践研究「もやもやフィールドワーク」と事例に学ぶトークシリーズ「迂回路をさぐる」の大きく 2 つのプログラムを軸として、港区芝を中心に都内各所で展開いたします。

このたび、プログラム概要が決定いたしましたので、ご案内いたします。

なお本リリース内容は平成 26 年 5 月時点のものであり、今後変更になる場合があります。

1. 対話型実践研究「もやもやフィールドワーク 調査編／報告と対話編」

行って、みて、もやもや話して考える

対話型実践研究「もやもやフィールドワーク 調査編／報告と対話編」。「調査編」では、都内各所の医療・福祉施設やケアに関わる団体、活動現場を訪れ参与観察と聞き取りを行います。「報告と対話編」では「調査編」の報告とそれに基づいたテーマ設定による対話を行い、多様性と境界に関わる活動とそれをめぐる状況への考察を深めます

●調査編

期間：平成 26 年 5 月～11 月

調査先：都内、全 12 か所の施設、団体、活動現場等

調査員：多様性と境界に関する対話と表現の研究所 研究員：長津結一郎、井尻貴子、三宅博子

内容：東京都および近郊エリアで、多様性と境界に関する対話と表現に関わる活動を行っている私たちが考える病院・福祉施設・当事者団体等を調査員が訪問し、活動の参与観察と関係者への聞き取りを行います。また、この調査で得られた見解や視点を「報告・対話編」にて参加者と共有し、ともに話し合い考えることで、当該分野に関する考察を深めます。

●報告と対話編 (全 6 回)

日時	平成 26 年 6 月 12 日 (木)、7 月 10 日 (木)、8 月 7 日 (木)、9 月 11 日 (木)、10 月 9 日 (木)、11 月 13 日 (木)。 いずれの日も 19 時 30 分～21 時。
会場	芝の家(東京都港区芝 3-26-10)
対象	当該テーマに関心を持つ人
定員	20 人程度 (要事前申込み。定員に達ししだい、申込みを締め切らせていただきます。)
参加費	500 円 (資料代込) / 回 (介助者 1 人無料)
内容	もやもやフィールドワークによる調査の報告と、それに基づいたテーマ設定による対話のイベントです。毎回、調査員によるプレゼンテーションのあと、参加者みなで話し合う時間を持ちます。 調査で得られた見解や視点を共有し、ともに話し合い、考えることじたいを目的とし、もやもやを楽しみます。

* 第 0 回：6 月 12 日の詳細は、添付のチラシをご覧ください。

2. トークシリーズ「迂回路をさぐる」全7回

映画、ダンス、音楽、造形活動——人々の多様性とそこにある表現から

日時	平成26年6月18日(水)、7月2日(水)、7月16日(水)、8月20日(水)、9月3日(水)、9月17日(水)、10月1日(水) いずれの日も19:30~21:00、全7回(各回のみの参加も可)
会場	東京文化発信プロジェクト ROOM302 (東京都千代田区外神田6-11-14 3331 Arts Chiyoda 3F)
対象	当該テーマに関心を持つ人
定員	20人程度(要事前申込み)
参加費	一人1,000円/回 5,000円/7回通し(いずれも介助者1名無料)

プログラム

1 (6月18日)	「自閉症の妹と向き合うための映像表現」 赤崎正和(映画「ちづる」監督)
2 (7月2日)	「対話の実験：とつとつダンス、劇団ティクバ+循環プロジェクト」 砂連尾理(ダンサー/振付家)
3 (7月16日)	「多様な個性を活かす即興アンサンブル」 ナカガワエリ(即興楽団UDje()主宰、おどるボイスパフォーマー)
4 (8月20日)	「精神科クリニックにおける造形活動の実践」 梅津正史(精神保健福祉士)
5 (9月3日)	「社会を楽しくする障害者メディアのつくりかた」 里見喜久夫(雑誌「コトノネ」編集長)
6 (9月17日)	「Living Together Lounge：ともに生きているということ」 アキラ・ザ・ハスラー(アーティスト)
7 (10月1日)	これまで登場したゲストの話を共有し、改めて、「迂回路をさぐる」ということについて参加者みなで話し合います。

進行：特定非営利活動法人 多様性と境界に関する対話と表現の研究所(申請中) 研究員(長津結一郎、井尻貴子、三宅博子)

* プログラム詳細は、添付のチラシをご覧ください。

＜本件に関するお問い合わせ・お申込み先＞

特定非営利活動法人 多様性と境界に関する対話と表現の研究所(申請中) 担当：井尻

住所 東京都港区芝3丁目30番1号山岸ビル2F

TEL 070-6437-3599 E-mail info@diver-sion.org